

滋病防第91号
平成20年(2008年)9月25日

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)の送付について

このことについて下記のとおり発表したの送付します。

平成20年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

平成20年(2008年)9月25日
滋 賀 県

1. 病害虫名: キクわい化病
2. 発生物名: キク
3. 病原体: キクわい化ウイルス (*Chrysanthemum stunt viroid*; CSVd)
4. 発生経過
 - (1) 平成20年8月頃より滋賀県湖北地域のキク(品種名:ピース)で、わい化症状となった株が多数認められた。
 - (2) このため、滋賀県病害虫防除所においてRT-PCR法により検定した結果、キクわい化ウイルス(CSVd)を確認し、キクわい化病であると診断した。
 - (3) 本病は、昭和57年(1982年)に静岡県で初めて確認され、その後、全国で発生が拡大している。本県では初めての確認である。
5. 病徴
 - (1) 茎の節間が短縮し、草丈が正常なものと比較して2/3~1/2程度短くなる(写真1、2)。
 - (2) 葉は小型化し、葉色がわずかに淡くなる。また、葉と茎との角度が小さくなり、直立して生育する傾向がある(写真3)。
 - (3) 花は小型化したり、開花が早まることがある。赤色系の品種では、花の退色が起こりやすい傾向にある。
 - (4) 本病に感染した挿し穂は発根不良となる。
6. 発生生態
 - (1) 病徴は高温期(25~30℃)に現われやすい。低温・弱光下では病原ウイルスが増殖しにくく、感染していても病徴が現われにくい。
 - (2) 本病は虫媒伝染、土壌伝染は認められておらず、主に汁液伝染する。
 - (3) 主要な伝染源は、罹病キク(病徴が現われていない株も含む)である。罹病キクの摘蕾、切り花、台刈りなどの作業時に刃物を介して伝染する。
 - (4) 本病は、幼苗時に感染しやすい。罹病キクの残さが混入した用土で育苗したり、苗の植え付け時に罹病苗の根と健全苗の根が接触すると伝染する可能性がある。
7. 防除対策

現在のところ、薬剤による防除は困難なため、以下のような耕種的防除を行う。

 - (1) 罹病苗をほ場に持ち込まないことが最も重要である。このため、病徴が認められたほ場では、親株を更新する。

- (2) 育苗時には罹病株の残さが混入している土壌は用いず、苗同士の根の接触の少ない育苗（セル成形苗など）を行う。
- (3) 発病がみられた株は速やかに抜き取り、適切な処理（土中深くに埋める、焼却処分する、袋等で密閉して腐敗させる等）を行う。
- (4) 作業時には、頻繁にハサミを替えるか消毒することにより、汁液伝染を防ぐ。
- (5) 無病徴でも感染している可能性があるため、新しく導入した品種などは取り扱いに注意する。



写真1 わい化したキク

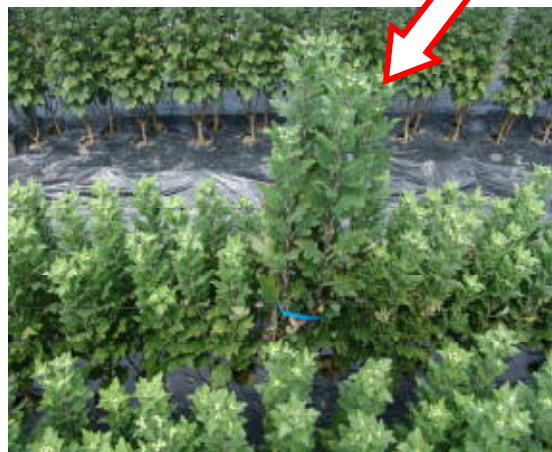


写真2 罹病株と健全株



写真3 葉の症状

ウィロイドとは

- ・ ウィルスよりも小さく、1本鎖環状RNAからなる最小の植物病原体。
- ・ ウィロイドは、ウィルスと違い外被タンパク質をもたず、熱や紫外線に対して比較的安定している。
- ・ ウィロイドに感染した植物はわい化や退色など様々な病害が引き起こされる。

滋賀県病害虫情報NET

インターネットで見る病害虫情報

病害虫発生状況・今後の予報と解説などがいつでもインターネットでご覧になれます

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/>

滋賀県病害虫防除所

〒521-1301

滋賀県蒲生郡安土町大中516

TEL 0748-46-6160

0748-46-4926

FAX 0748-46-5559